令和７年度　第１回ゼロカーボン研究会　事後調査報告

1. 調査概要

1.1. 目的

今後の研究会をより有意義なものとするため、参加者のご関心やご要望を調査することを目的に実施

1.2. 実施日

2025 年 6 月 2 日(月) 研究会終了後

1.3. 調査対象

令和７年度　第１回ゼロカーボン研究会の参加者 61 名（自治体 14 名、民間事業者・その他 47 名）

1.4. 調査方法

アンケート形式は、用紙記入、web 記入により実施。

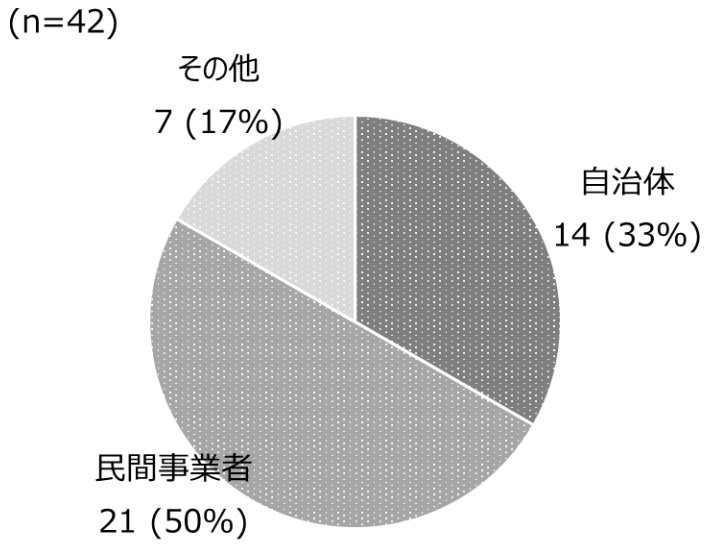
1.5. 回収状況

回答数：42 件（自治体 14 件、民間事業者・その他 47 件）

回収率：69%（自治体 100%、民間事業者・その他 60%）

2. アンケート結果

1） アンケート回答者の所属区分

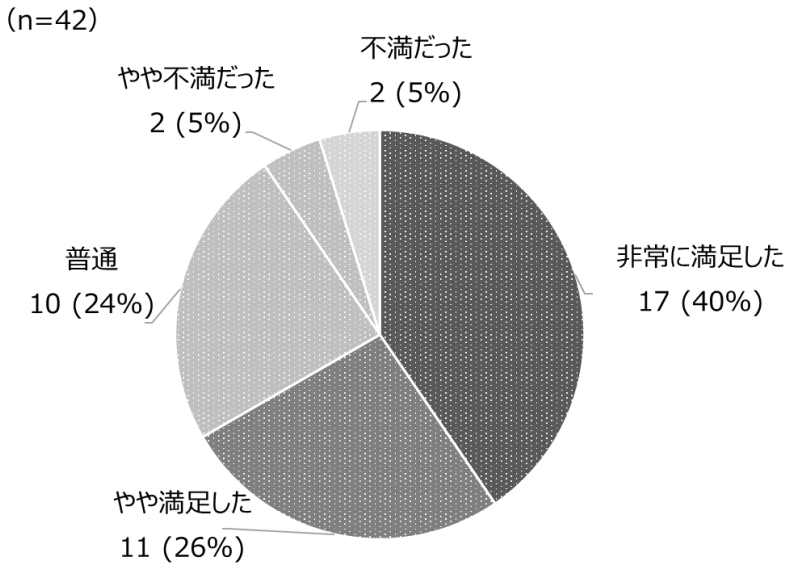


【その他の内容】

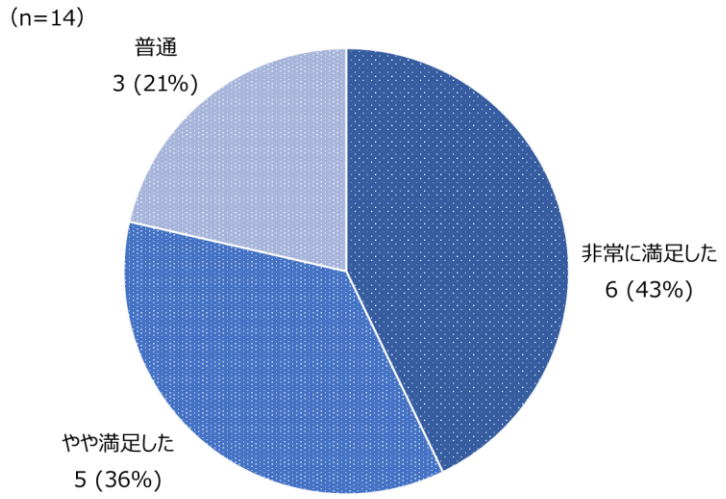
- 大学（2 件）
- 金融機関（2 件）
- 環境省（2 件）
- 株式会社（1 件）

2） 今回の研究会に対する満足度を教えてください。

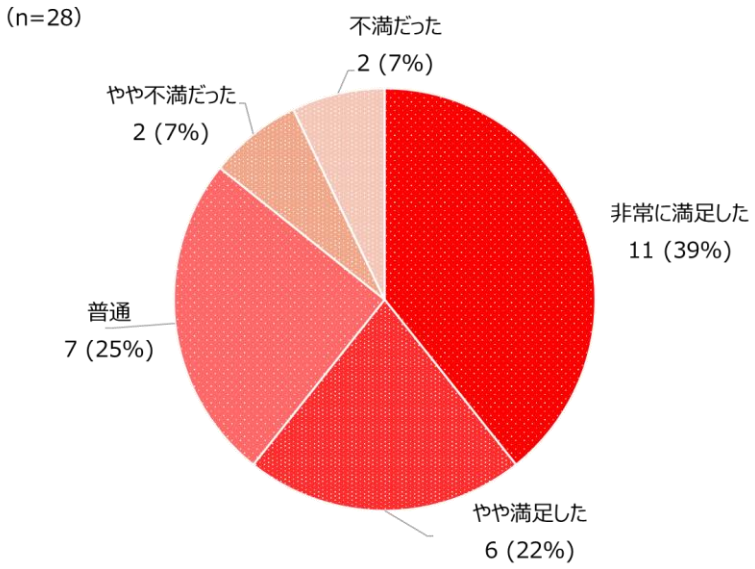
➢ 全体の満足度は「非常に満足した」が最も多く、全体の 40%であった。また 66%が満足したと回答した。



回答者：全体



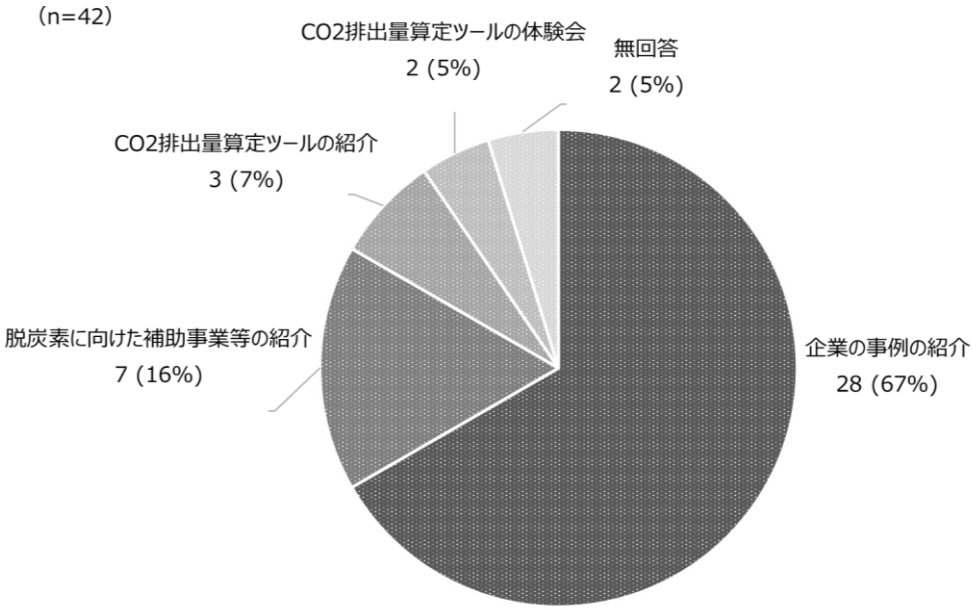
（満足度）自治体



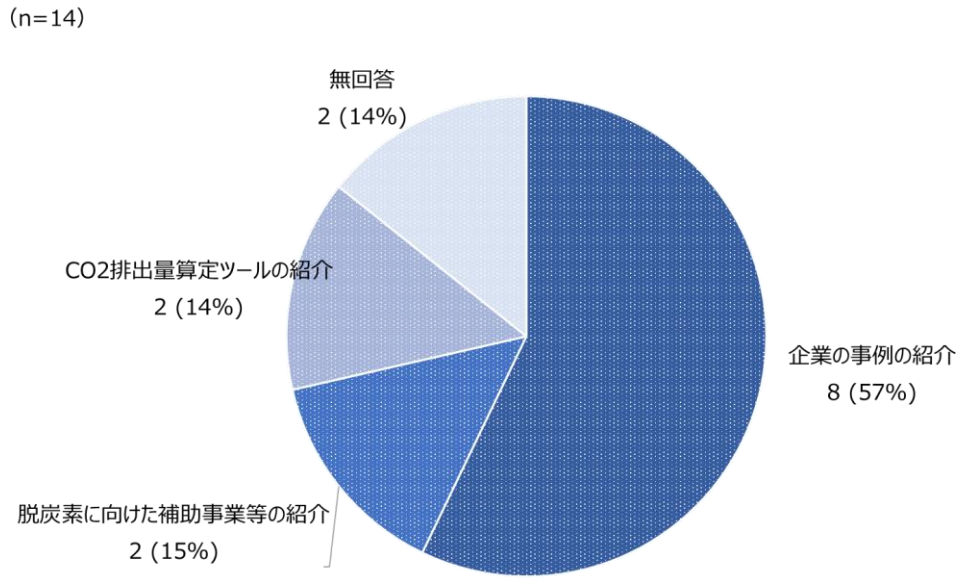
（満足度）民間事業者・その他

3） 最も参考になった講演内容を選択してください。

- 全体の回答としては「企業の事例紹介」が最も多く、次いで「脱炭素に向けた補助事業等の紹介」が多かった。

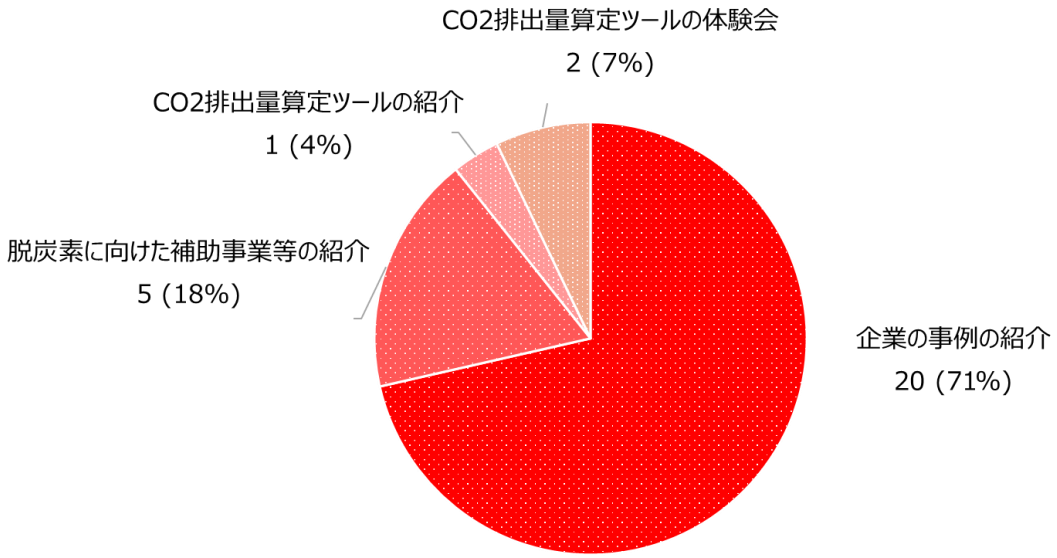


回答者：全体



回答者：自治体

（n=28）



回答者：民間事業者・その他

4) 講演やパネルディスカッション以外に、どのようなプログラムがあると参加したいと思いますか。

単位(件)

所属区分	企業間マッチングや交流会	脱炭素に関するサービスの展示ブース	個別相談コーナー（脱炭素関連業者/金融機関など）	その他（自由記述）
自治体	2	6	2	0
民間事業者･その他	11	14	6	0
全体	13	20	8	0

5) ゼロカーボン研究会では年末にかけて大規模イベントを企画しています。講演やパネルディスカッションで聞いてみたいテーマがあればご記入ください。

- EV 導入企業の実践報告など
- 脱炭素の事例
- 中小企業における脱炭素の取り組み
- 特にございません
- 建設業、産業廃棄物排出において、社員レベルで実行可能な二酸化炭素削減
- 脱炭酸に向けて効果的な企業の取り組み事例紹介
- 先進地域の事例紹介や岡山県内の実態
- 企業が脱炭素に取組む前向きなメリットを聞きたい。大企業等元請から求められるや排出量取引制度、脱炭素税のような取組しないと罰を与えるでは已む無く取組むものとなり、企業の負担を増加させているだけだと思います。

- サステナブルファッションについて、バイオマス発電（木材）の地域連携の事例
- 県内企業・自治体等の取組事例、環境スタートアップ企業の取組、個人の行動変容の具体的事例

6) その他、ご意見・ご感想などあればご記入ください。

- ありがとうございました。
- 特にございません。
- 特になし
- 太陽光、省エネ以外で、二酸化炭素削減の事例を紹介してほしい（特に産業廃棄物の排出）
- 今回 Web で参加しましたが、通信状況が悪く、複数回音声が途切れ、聞こえない点がありました。また、説明の内容と画面に共有しているスライドの内容がマッチしていないことも複数回あったため、改善を求めます。
- 脱炭酸に向けてたいへん参考になる講習に参加させて頂きありがとうございました。弊社は社員環境意識の定着が課題につき具体的な取り組みをご紹介いただきましたので、早速取り組みに活かしたいと思います。
- CFP 起点のイノベーションの話に興味を引かれました。今後も情報共有いた P 起点のイノベーションの話に興味を引かれました。今後も情報共有いただけると有難いです。
- 企業間マッチング等の為に、現地出席者の参加者リストを共有してほしい。
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 本日はありがとうございました。
- 脱炭素化に向けた取り組みとしてとても勉強になりました。ありがとうございました。
- 脱炭素経営や省エネの取組の先進事例企業の訪問、視察があれば参考になると思います。
- マイクの音が割れて聞き取りづらかったです。
- 補助金事業が参考になりました。

以上